

日本原子力学会「核燃料部会」  
第34回総会議事録(案 改1)

日時 : 平成22年3月27日(土) 12:00~12:50  
場所 : 茨城大学・水戸キャンパス L会場(共通教育棟2号館37講義室)  
出席者 : 約20名

1. 部会長挨拶

岩田部会長より冒頭挨拶があった。規約や内規を見直していること、部会報の電子化についても単なる費用削減というだけでなく新しい情報発信方法として活用したいことなどが述べられた。

2. 活動報告および今後の活動計画

庶務担当から配布資料を用いてH21年度活動報告およびH22年度活動報告を行った。主な質疑は以下の通り。

- Q) 部会報の電子化については、受け取れない方への対応はどのようにするのか？ A) 現在でも夏版は電子化している。その中で、電子メールアドレス登録の無い方には、はがきを出して核燃料部会 HP をご参照願うようお願いしている。
- Q) 部会員の年齢構成は？ A) 年々高齢化し、20-30代が少ない。
- Q) 以前は、会員数の増減報告がなされた。会員数は把握できているのか？ A) 把握できている。400名強である。
- Q) 部会員の帰属意識が低いのではないのか？ A) 学会の企画委員会、部会企画員会で議論するべきことと考える。

3. 規約改定について

安部田副部会長から配布資料を用いて規約改定経緯など概要が、引き続き、核燃料企画委員会の逢坂委員(JAEA)から詳細説明がなされた。主な内容は以下の通り。

背景および経緯について

- 核燃料部会企画委員会第一回会合('09.12.9)での決議に基づき、核燃料部会規約を改訂し、核燃料部会運営委員会における審議に回った('10.2.17)。その後、ほぼ並行して行われていた全部会を対象とした学会全体での部会規約改訂(企画委員会・部会等運営委員会規程類合同検討WG)の検討結果がまとめられ、全部会に規約改訂の指示が出された。これを受けて、再度、核燃料部会規約の改訂を行なった。
- 改訂内容を'10.3.26に開催された核燃料企画委員会および部会運営委員会で審議し、以下に示すいくつかの箇所を改訂した。
  - 事業のうち、社会に対する情報発信の項目を追記した
  - 運営において、部会長および副部会長の運営小委員会における役割を明示するとともに、幹事についての記載は内規に移行した
  - 部会長および副部会長の選任については、「互選」とした。これは、互選としても必ずしも規則を定めて選管を立ち上げる必要は無く、メール等による部会員への周知等の方法で十分であることからである。

#### 総会での審議について

- 上記を反映し再改訂した案を部会総会に諮った。結果、
- 目的について、核燃料に関わる部分はすべてカバーすることが原則であるべきとの意見があった。これを踏まえ、他部会との整合性も考慮しながら目的を再度修正した。
  - 本議論において、「挙動」ではなく「ふるまい」の方が適切であるとの意見があった。
  - 現在は数多く設立された部会を絞って行く時期であることから目的についてもそれを反映する必要があることが指摘された。これを踏まえて、具体的な活動については目的の条項に記載しないこととした。
- 総会で出た意見を反映し、再度、改定の上、部会員による審議を近日中に実施することとした。

以上